

磐城日報

発行所 磐城日報社
電話(呼)二〇三八番
編集人 後藤幸夫
印刷人 丸山徳平
毎週水曜日休刊
毎週月曜日から日曜日まで
購読料 一月一元

氷菓の行商を禁止

湯本にチブス発生

平保健所防疫に万全の策

湯本町關船字堀田農北郷安さん長女ハツヨさん(三)は昨年寒雑貨の行商をして轉々として来たがこの程發病し廿四日醫師の診断の結果、腸チブスと判明高倉隔離舎に收容された、平保健所ではハツヨさんの發病は行商先と見て居る尚湯本町内全部に對しキャンデー行商を即日禁止した

アユはでかいゾ

茨城の解禁後六日に迫り 本縣も發育は上々

○勿來町のお隣り、茨城 といふ事である 縣に於けるアユの解禁は○福島側も茨城側より一 日早く、平地方に於ける天狗通は早くも掉の手入れから毛バリの選擇に餘念がない
○茨城側からの第一報によると、那珂、久慈川とも昨年よりは豊漁で發育は上々とあり、友ツリで十匁程度、ドブでもそれ位のアユは大丈夫釣れよう 譯だ

潜在を加えれば

失業者は約三万!

失業攻勢が日増しに尖鋭化四日現在で見ると 一つある現在平職安管下 各地の就ろう状況を二十 (追加就ろう一五〇)湯

本市白銀町十一番 發行所 磐城日報社
電話(呼)二〇三八番
編集人 後藤幸夫
印刷人 丸山徳平
毎週水曜日休刊
毎週月曜日から日曜日まで
購読料 一月一元

(四二)赤井(六二)勿來、 錦(七七) であるが二十四日現在の登 録者数は 平が三四四、内郷は八一 八、湯本二五九、好間二 二五二名 一方同所の調査による管下 の失業者数は四月末日現在 で八千五百九十一名といふ 事になつておりこのほかに 潜在失業者約二万がプラス (赤井)一〇〇(勿來)七〇(錦)一〇〇、これに對し者救済對策問題はいよゝアブレは平(七五)内郷(重)大となつて来た (一〇〇)湯本(二〇)好間

ムシ歯の豫防に

學校側で實踐週間實施

學校兒童生徒のムシ齒罹患 率は非常に高く口腔衛生に 對する認識が低下している ので六月一日より一週間に 亘り全国的にムシ齒豫防教 育實踐強調運動を展開しむ ことと要求した處町當局 には豫防知識を日常生活に 實踐せしめることになつた 本運動に對し縣教委石城出 張所では各學校の事情に應 じ講話、ポスター、標語、 紙芝居演劇、討論會、研究 會及び口腔衛生についての 優良者、優良學級表彰等の 實施計畫を通告し趣旨徹底 指導の万全を期している

就勞を要求

炭車で重傷

今度は内郷役場に 巨る交しようも結局問題に されず退散した 川名の逮捕後の内郷町自由 ろう組に於ける態勢は急變 し就ろう紹介もすべてスム 炭車で重傷 機動夫高木輪さん(43)は昨 二十四日午後九時半頃炭車 に觸れ重傷を負つた

學校保健の 運営に万全

縣教委石城出張所では學校 保健の重要性に對處しその 充實を計り運営の万全を期 するため今二十五日午後一 時より平第二小學校で郡下 學校醫、學校齒科醫及び校 長、保健主任、養護教諭等 百名余が集まり、兒童の身 體検査の結果處理及び一般 討議等研究協議會を開催し た

木炭對策協 議會

石城地々木炭對策協議會は 來る三十一日午後一時より 石城地方事務所會議室で開 き木炭需要の減消する夏期 を迎えるため木炭の融資及び 取引木炭倉庫の取扱ひ方等 について協議する

家庭職業講 習會

家庭職業講習會は來る二十 七日平第二中學校で市内各 中、高等學校専門主任を招 集の上開催する

自治警察石 城部會協議

自治警察石城地々部會では 二十五日午後一時から平市 署會議室で縣總務部長福島 市署長が特に臨席した上、 郡下各公安委員、同町村長

八万円詐取

平市紺屋町料理店細山武雄 (三七)は昨年六月田村郡穂 山(三三)に羊毛を世話すると して八万円を詐取二十三日夜 平市署に逮捕

川和氏夫人 稀に見る盛儀豫想

稀に見る盛儀豫想 (訃報)去る二十二日死去し た川和徳一氏、夫人均子さ ん(三三)の葬儀は蓮沼龍輔氏 が委員長、石山一治、高野滿 次郎兩氏が副委員長となり 來る三十日執行されるが當 日は午後一時から二時迄銀 治町の自宅で告別式を行つ た上性源寺に埋葬される事 になつており稀に見る盛儀 が豫想されている

◎形人月五◎
其の他 飾 商店
スガノヤ
平市四丁目
TEL323

名刺のデパート
名刺印刷専門店
平市公會堂脇 (古市)

中央通り 電話886番
世界館入口

三馬ゴム代理店
横山商店
平市三丁目 (電話九四番)

ツガミミート・コクサイ
工業用家庭用
良品的ナ品ヲ
揃へテ御座居マス
電話1098番

平市白銀町 鈴木ミシン商會

民生委員定例会
平市民生委員定例会は廿廿 六日午後一時より公會堂日 本間で行う

平市 人 事
○出 生
○田口行男さん長男雄司ち
やん一四町目五
○赤坂重雄さん長男利夫ち
やん一四町目五
○松本繁夫さん次女エリ子
ちやん一四町目四
○白土鏡衛さん長男勝地ち
やん一四町目一七
○死 亡
▲川和均子さん(三三)銀治町

綿製品ハネ上る

物によつては二割方高値

○綿製品の相次ぐ高値は、それに加えて点数の騰止でひところ底なしの下落を辿つた衣料品もこのころ値上り気味を示し中には今月初旬に比較してヤールで二、三十圓から四、五十圓位値上げとなつた品もある。

○この原因に就て平市内の某業者は輸出再開による原糸の不足と綿製品が必要に入つた結果だと語つてゐるが結局は衣料品の安いのが頂上である。

これからは値上る一方と見るのが至當であり再び貧乏人の嘆く時代が再現しよう。

○某洋品店をのぞき店頭には飾つてある二、三の品を見たとその値段は綿手拭が一本三五圓(丸公三十一圓)ワイシャツは四百五十圓から、開襟も最低四百圓前後、ユカタ地は一反六百圓からとあるが品は豊富ではなさそうである。

コークスは自由

澤山御使用下さいと 平瓦斯會社で街頭宣傳

石炭の統制からコークスもやん(ニッ)は二十三日疫病結局統制されて戦争中はむろん昨年の九月迄はヤミ以外は家庭使用は絶対不可能とされていたが燃料の好轉と共にコークスもまた統制を外されて自由になつた。

使用出来る事になつたので平市月見町の瓦斯會社では去る二十二日から三町目の街頭でコークスの宣傳を兼ねエークスコンロ、同風呂等の賞演並に大特賣を實施してゐる、大會社の街頭宣傳も戦後に見る新しい商賣戦術である。

久保町に疫病

市内久保町二大槻一からで損十五萬圓

渡邊の火事

渡邊村大字長者原高橋話 一郎さん(五十)方から二十三日午前十時頃火一戸一棟を全焼した、残火の不始末

強口ヤス子夫人

好間村川中子土建業強口唯七郎氏ヤス子夫人は病氣療養中二十三日午後九時二十九分永眠した、葬儀は二十日午後二時自宅で告別式を行う。

二ユース

○(宮城)刈田郡圓田村では、同村々長井上勇吉翁(八三)の銅像建立を村會一致で可決、近く事業に着手するが井上翁は村長在職三十五年、三十七才の時村長となり二期を休んだだけで現在に及びその間縣議を二期つとめていた。縣下稀に見る自治功勞者、刈田郡町村長會でも銅像建立に對しては一役を買つてゐる、尙工費は百十萬圓。

○(茨城)太田地区署では久慈郡梁和田村中染無職鈴木昇(三三)を醫師法違反として檢舉目下取調中だが、同人は北支から歸還後元衛生部長の肩書をもつて同村の豊田寅次さん(五十)の切開手術を行った外村内五十余名に往診、治療投薬を行った外同村關村丹次郎さんは同人の誤診で遂に死亡した旨を自供してゐる。

十一字詰三十行以内で建設的な意見の投稿を歓迎いたします(係)

共産黨員排撃

佐藤平職業安定所長をつしあげあまつさえ、所長のネタタイをつかんで脅迫に出た事はまさに衆の力を背景にした非法的な暴力行爲であつて吾人は彼らを断乎として排撃する。彼らは何れも共産黨員であるという。この事から見ても彼らは平騒じよう事件に心を改めざる事なく、かえつて二次三次的な騒じよう事件を計畫して平和を破壊しようとしてゐる。敗戦後基本的人權が認められ、日本人が自由に開ほうされたのも結局はマ元帥の特別な取扱いと解釋すべきである。然るに彼ら共産黨員はこの解ほうを誤解し、自由な平等の權利を履違ひて勝手な行動を起し祖国日本を共産主義の帝國主義に導かんとしているのである。かれらが団体交渉を平職安に求めるならばその方法を探るべきであり、又代表者として交渉なら、いかに日雇労働者でも今少し人格を保つた紳士的態度に出るべきであらう。それを行はず背後に控へてる群衆という虎の威を籍りたかれらの行動は實際で棄すべきである。

平六・渡邊生

決算前の全商品
迄 30日
一割引
大奉仕

平市白銀町(電五二三)
番川又商店

▲7月號
小學館物 發賣中
家庭生活 發賣中

平凡 23日發賣 豫定です
イシヤマ書店 聚樂館通り 電四五四

委託加工
お土産に
お喜ばれる
クラッカー
せんべい

ナガセ
胡麻澤食糧配給所隣り

靴と運動具は
電話七七番
大塚
三十米道路

御氣に召す様にと
常に努力致して居ります
御急ぎの御注文に應じます

洋服 洗張
クリーニング
永澤
平市一丁目

本場自まん
牛豚肉
勉強で評判

夜も營業致します
第一綠屋
第二綠屋

電七九四番五三九番

クロパン

土日曜サービス

壽百貨店
吳服廣中部!!
夏服地
大特賣!!

クリーニングの
御用は學術共に
一線を行く
弊店へ

クリーニング
ドライクリーニング
平市大町五
ナガヤマ
電606 御利用下さい

さわやかな薫風
映へるお姿

鈴藤の洋服
なればこそ

▲世界館前 電八八六